

人輝く

日の本穀粉株式会社（栃木・小山市）代表取締役

黒田寛氏

KURODA
HIROSHI



秋の叙勲「旭日小綬章」の栄に輝く

■一番の財産は人との繋がりです
日の本穀粉株式会社代表取締役の黒田寛氏は、米穀粉の製造販売や業界団体を通じ、広く社会に貢献したことが認められ、平成30年の「秋の叙勲」旭日小綬章を受章した。

黒田社長は大学を卒業後、日本菓子専門学校で学び、日の本穀粉に入社（27歳の時に父親が他界）。その後は、自らトラックを運転し、全国を縦断。「多くのお客様に支えられて、ここまで来ましたので、私の一番の財産は人との繋がりで」と語る。かたわら、若くして全国穀類工業協同組合に入会。昭和59年には理事として運営に参画。その後、副理事長を経て理事長に就任、業界団体の発展に貢献。一方、母校の日本菓子専門学校で監事や理事を歴任し、菓子業界の人材育成にも尽力している。

平成12年には、「和菓子」の振興発展を目指し、和菓子協会の「和菓子振興会」の設立にも関わる。現在は副会長として、その振興にも寄与。そして昨年の10月には、コメ粉の海外普及を目指し、フランス（パリ）で、日仏友好160周年記念「ジャポニスム2018・響きあう魂」にも参加。チーム和菓子のメンバーとともに、日本の和菓子の素晴らしさを伝播。「今後とも、日本の食文化を世界に発信していきたい」と実に意欲的だった（詳細は1月号で既報）。

■平成最後の「秋の叙勲」の栄に浴す

「平成24年4月に、藍綬褒章を受章しましたが、今回は平成の最後の年——、天皇陛下がご存命中に元号が変わるといふ日本の節目に、こうした榮譽に浴し、嬉しさもひとしおです」。長い道のりを振り返り、「多忙な時期は、1年に80日くらいしか家になかったこともありますが、家内（のぞみさん）のお陰で、仕事に没頭することが出来ました。ただただ、感謝です」と、感慨深く回想していた。
